

## 客員教授紹介

### ICCAEとJICAの末長いお付き合いを お願いします

国際協力事業団(JICA)国際協力総合研修所 **金森 秀行**  
(任期: 2001年7月1日~3月31日)

私は、技術協力業務をライフワークとする国際協力専門員として、2つの人づくりプロジェクトで、その形成段階から実施~終了まで一貫して参加した経験があります。そこで、ICCAEの客員教授として、「大学が実施機関となる農業分野の教育研究協力プロジェクト評価結果の分析による新規プロジェクト形成方法の改善に関する研究」を実施しました。これは、過去の終了プロジェクトの整理検討を行ない、新規プロジェクト形成に役立つ提言と教訓を導くことを目的とする研究でした。その中で、8プロジェクトについて、JICA報告書

71冊を要約した評価概要表を作成しました。さらに、協力実績と評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)を比較検討し、その結果をまとめました。こうして客員教授としての研究は終了しましたが、今後も国際協力専門員の研究業務として継続したいと思っておりますので、今後とも末長いお付き合いをお願いいたします。



**略歴** 1949年兵庫県生まれ。1974年香川大学農業工学科卒業後、鹿児島県庁に就職。1978年に同県庁を退職後、青年海外協力隊に参加してアフリカ・マラウイ国に派遣。1981年帰国後、82年に米国アイオワ州立大学修士課程(農業工学)に入学。1984年に同課程を修了後、国際協力事業団に就職し、フィリピンとルーマニアのプロジェクトに各5年ずつ専門家として勤務し、また各種のJICA調査研究業務および研修業務を実施して、現在に至る。

### 大学院カリキュラム開発に取り組んだ 3ヶ月

カンボジア王立農業大学(RUA)農業工学部長 **ンゴ ブンタン**  
(任期: 2001年12月9日~2002年3月8日)

現在、学部教育のみ実施しているRUAは、2002~03年度に大学院(修士課程)を開設する予定です。今回、私はICCAEのご厚意で客員教授として3ヶ月間ICCAEに滞在し、「大学院教育用カリキュラムの開発」を目的とする研究に取り組みました。研究の主眼は、大学院の教育制度、運営方式、修士課程カリキュラムの検討で、具体的には単位制度、大学院生指導方針、課程教育の実施と評価方法などを含みます。この間、ICCAEの松本教授からは、

日本と世界の大学院カリキュラムの到達点から学ぶという視点の重要性など、討議を通じて数々のご教示をいただきました。この成果は必ず、RUAの大学院教育に反映されると確信します。滞在期間中にICCAEスタッフの皆様からいただいた温かいおもてなしに、心から感謝いたします。



**略歴** 1965年生まれ。1989年RUA農業工学部卒業。1990~1991年農林水産省農業工学科技師。1996年アジア技術大学(AIT;タイ・バンコック)大学院修了(農業機械管理学修士)。1991年RUA教官として採用される。1997年1月RUA農業工学部副学部長。2000年1月~同学部長。

### アフリカ3カ国訪問記

プロジェクト開発研究領域 **門平 睦代**

平成14年1月26日~2月19日の間、ケニア、ウガンダ、ザンビアの3カ国を訪問した。ケニアではナイロビ大学とジョモケニヤッタ農工大学(AICAD本部)、ウガンダではマケレレ大学、ザンビアではザンビア大学の教官らと懇談した。本センターと将来的に交流協定を結ぶ可能性の有無につき予備調査を行うとともに、共同研究や新規開発プロジェクトを立ち上げる可能性についても探った。3カ国における大学運営システムは類似しているが、隣国同士でも交換レートがかなり違うこと(US1ドルの換金レートは、ケニア75、ウガンダ1700、ザンビア4000)を、短期間の滞在であったので、より切実に実感した。今回の訪問を通じて、貧困緩和のための人づくりを目指すAICAD事業へ8大

学が参画したことや、ウガンダ国の「貧困対策委員会」にマケレレ大学社会学部教員が委員として選出されたことなど各大学が貧困克服に関わる課題に真摯に取り組む姿勢を身近かに見聞して、心強く感じた。



ザンビア大学獣医学部附属家畜病院のスタッフと